三重の病院

つなごう医療

◁89▷

木ノ内医院 紀北町

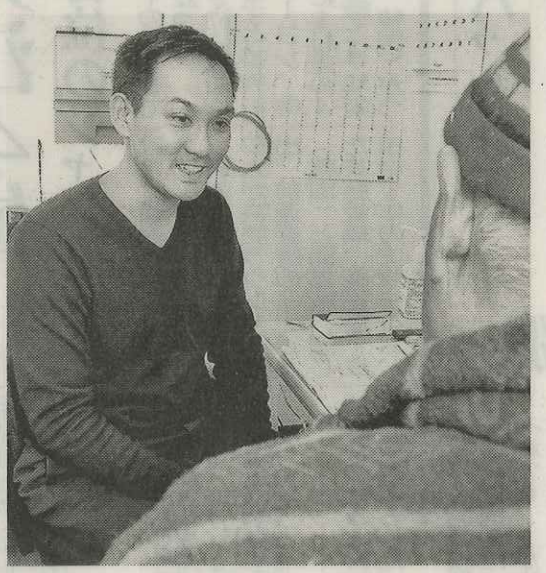
地域に寄り添う診療

「傷口もふさがったね」「体重増えたんじゃない。食べるもの気を付けないと」―。木ノ内勝己院長(三九)は診察室で患者に優しく語り掛ける。

市街地から離れた山間部にある医院には午前中の診療時間中、紀伊長島区全体から二十~三十人が訪れる。ほとんどはお年寄りで、症状は外傷や生活習慣病、耳の中の病気までさまざま。自動車の免許を持たず、交通手段を持たない人も多いため、診療日は毎日無料の送迎車を出している。

午前中の診療が一段落すると木ノ内院長は看護師と一緒に車に乗り込み、今度は十軒ほどの往診に回る。がん患者の投薬治療や点滴、寝たきりのお年寄りの治療など、家を出るのも困難な人のためだ。

骨折して治療を受けている長島の女性患者(八四)は「家から出られなかった三カ月は往診に来てくれたし、今は医院まで送迎してくれる。ありがたいですよ」と話す。



患者のお年寄りに優しく語り掛ける木ノ内院長=紀北町紀伊長島区島原の木ノ内医院で

地域に寄り添う形での診療は「医師が患者へ近づき、家族の負担も減らせるよう努力することが使命」という木ノ内院長の信念に基づく。東京出身の木ノ内院長は、父親が心筋梗塞で倒れて入院したときに医師と接したのをきっかけに、医師の道を目指した。

金沢市の金沢医科大を卒業後、先輩医師の勧誘で大紀町錦の医院で働き始めた。この診療所が運営していた島原の診療所を二〇〇三年に引き継いだのが、現在の木ノ内医院。〇四年には、医師がいなくなった医療へき地の三浦診療所(同区三浦)の運営も引き継ぎ、主に午後に診療している。医院と診療所経営をした。

▽開設　2003年▽病床なし▽常勤医1人▽内科、外科▽看護師2人、事務員3人▽紀北町紀伊長島区島原2972-3▽電0597(47)4346

行政と連携し活動

木ノ内勝己院長の話

診察する患者の平均年齢は75~85歳くらいとお年寄りが多い。生活習慣病も重く、通院もままならない人が多い。私はまだ若いし、フットワーク軽く見回って、医療が地域の仕事を天職と実感しました。

さらに活動の幅を広げるきっかけになったのが、〇五年に地元の青年会議所へ入会したことだった。医療部会の活動で、カンボジアでの継続的な医療支援活動や福祉先進国スウェーデンへの視察を経験し、地域への新たな貢献を考え始めた。

認知症患者を地域で支える施設をつくろうと、医療法人「誠山会」を一〇年八月に設立。四月からは紀伊長島区の中心地でグループホームをオープンする。福祉分野で地域を支える第一歩だ。

(藤原啓嗣)

過去の記事は「中日医療サイト」で読めます。

行政とも連携して自分ができる活動を広げたい。医療も福祉も充実すると雇用の場も生まれるし、新たな可能性が出てくると信じている。

地域全体が住みよくなるために、行政とも連携して自分ができる活動を広げたい。医療も福祉も充実すると雇用の場も生まれるし、新たな可能性が出てくると信じている。

地域の要望に沿うようにしたい。